

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

(単施設研究用)

西暦 2020年 7月 1日作成 第 1.0版

研究課題名	輸液療法における ERCP 後膵炎予防効果の検討
研究の対象	2011年4月1日から2020年3月31日までの期間に横浜市立大学附属病院で ERCP を施行された患者さん
研究目的 ・方法	内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERCP）は膵臓がん、胆管がん、胆管結石など胆膵系疾患において画像診断ならびに病理診断において欠かすことのできない必須検査方法になります。しかしながら ERCP は膵炎を始めとする様々な合併症を引き起こします。膵炎は ERCP 後 1～10%程度発症し、特に膵炎はひとたび重症化すると、集中治療管理を要することや、月単位から年単位での入院の長期化を引き起こし、さらには致命的な合併症となることもしばしばあります。実際に横浜市大病院においても重症膵炎が要因で年間 1-2 人程度の死亡例が発生しておりました。ERCP 後膵炎の予防効果について NSAIDs（ロキソニンを始めとする消炎鎮痛剤の総称）の予防投や膵管ステント留置の有用性が報告されていますが、その膵炎抑制効果は依然として不十分といえます。急性膵炎の最も効果的な治療法の一つは十分な量の輸液療法になります。今回 ERCP 周術期に十分な輸液量を確保することにより膵炎発症予防ならびに膵炎重症化、膵炎による死亡の抑制効果を検証いたします。
研究期間	2020年 8月 13日 から 2023年 3月 31日
研究に用いる 試料・情報 の種類	<ul style="list-style-type: none">● 患者基本情報：年齢、性別、診断名● 血液検査（AST、ALT、ALP、AMY、リパーゼ、CRP）● 合併症の有無● ERCP 内容（検査目的、処置時間）● CT 画像（撮影時）● 輸液療法内容（輸液名、投与量、投与期間）● 予後
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話でお申下下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学科 （研究責任者）栗田裕介

電話番号：045-787-2800（代表）